

野田市新清掃工場建設計画に係る生活環境影響調査予測評価結果一覧

資料39－3－3

No.	調査項目			現況調査結果	予測評価結果								
	項目	内容		環境基準値等内：○ 環境基準値等超：× 環境基準値等無：●	施工時			供用時					
					結果	判定		結果	判定				
						予測	評価		予測	評価			
1	大気質	環境大気質	7項目	○	—	—	—	付加率は0.0～3.2％で将来濃度は現況濃度とほとんど変わらないと予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○			
		降下ばいじん		●	付加量は0.6～3.0 t /km2/30日で影響は小さいと予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○	—	—	—			
		道路交通大気質	2項目	○	付加率は0.00～0.15％で将来濃度は現況濃度とほとんど変わらないと予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○	付加率は0.00～0.19％で将来濃度は現況濃度とほとんど変わらないと予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○			
2	水質	健康項目	27項目	○	土木工事等の実施に伴う土砂の掘削や裸地の出現等により、降雨時の濁水等の発生が考えられるが、環境保全措置を講じることにより、公共用水域（八間堀）への影響は小さくなると予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○	供用時の焼却施設からの生活排水は、プラント排水とともに、排水処理を行った後に場内で再利用する無放流方式とし、ごみピット汚水は排水処理を行った後、炉内に噴霧する。 したがって、公共用水域（八間堀）の水質及び底質に変化はないと予測し、環境影響が回避されていると評価する。	○	○			
		生活環境項目	9項目	●									
3	底質	ダイオキシン類		○							ダイオキシン類以外	8項目	●
4	水文環境	地下水位		●	地下構造物として、ごみピットを設置するが、プラットホームを2階に設置するなど、ごみピットの掘削深さを小さくすること、可能な限り地下水位への影響が小さくなるような工法を採用することから、地下水位の低下は小さいと考えられる。また、調査地点は利根川に面した氾濫原に相当するため、地下水位と河川水は密接に関連していると考えられる。 したがって、地下水面以下で掘削を行う場合においても利根川から河川水が供給され広域的な水位低下が生じるとは考えにくいことから、地下水位の変化は小さく、著しい影響はないものと予測する。同様の理由から湧水への著しい影響もないものと予測する。 また、地下水質の現況調査で環境基準超過が確認された砒素による周辺地下水質への影響に対しては、ごみピットの設置工事にあたっては、適切な山留め壁の設置など、地下水の影響が生じない工法を採用し、適宜周辺地下水の状況をモニタリングし必要に応じて対策を講じることとすることで、影響が拡散しないと予測する。 以上から環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○	地下構造物として、ごみピットを設置するが、プラットホームを2階に設置するなど、ごみピットの掘削深さを小さくすることから、地下水位の低下は小さいと考えられる。また、調査地点は利根川に面した氾濫原に相当するため、地下水位と河川水は密接に関連していると考えられることから、地下水面以下に地下工作物が存在する場合においても利根川から河川水が供給され広域的な水位低下が生じるとは考えにくいことから、地下水位の変化は小さく、著しい影響はないと予測する。同様の理由から湧水への著しい影響もないと予測する。 以上から環境影響ができる限り低減されていると評価する。 また、焼却施設からの生活排水は、プラント排水とともに、排水処理を行った後に場内で再利用する無放流方式とし、ごみピット汚水は排水処理を行った後、炉内に噴霧する。したがって、公共用水域の流況に変化はないと予測し、環境影響が回避されていると評価する。	○	○			
		地下水質	砒素以外 27項目	○									
			砒素	×									
		湧水		●									

野田市新清掃工場建設計画に係る生活環境影響調査予測評価結果一覧

No.	調査項目			予測評価結果						
	項目	内容		環境基準値等内：○ 環境基準値等超：× 環境基準値等無：●	施工時			供用時		
					結果	判定		結果	判定	
						予測	評価		予測	評価
5	騒音	環境騒音		●	候補地敷地境界でいずれも規制基準を満足すると予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○	候補地敷地境界でいずれも規制基準を満足すると予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○
		道路騒音		●	セブンイレブン野田目吹店前地点では、参考基準値を上回るが、騒音レベルの増加量は0.2デシベルであり、現況騒音レベルとほとんど変わらないと予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○	セブンイレブン野田目吹店前地点では、参考基準値を上回るが、騒音レベルの増加量は0.0デシベルであり、現況騒音レベルと変わらないと予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○
6	振動	環境振動		●	候補地敷地境界でいずれも規制基準を満足すると予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○	候補地敷地境界でいずれも規制基準を満足すると予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○
		道路振動		●	いずれの地点も振動感覚閾値を下回ると予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○	いずれの地点も振動感覚閾値を下回ると予測する。また、環境保全措置を講じることとから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○
7	超低周波音			●	—	—	—	類似施設での調査結果から、環境保全措置を講じることにより、影響は小さいと予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○
8	悪臭	特定悪臭物質	22項目	●	—	—	—	施設に搬入・貯留される廃棄物や煙突排ガスによる影響は、環境保全措置を講じることにより、大部分の地域住民が日常生活において感知する以外の臭気を感知しない程度になると予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○
		臭気指数		●						
9	地形地質			現況調査はなし	候補地は、平坦な地形であり、大規模な地形改変を行わないことから、地盤安定性の変化は小さいと予測する。 また、地下構造物として、ごみピットを設置するが、水文環境で予測したように環境保全措置を講じることにより、地下水位の変化は小さく、地盤沈下が発生する可能性は小さいと予測する。 以上から環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○	—	—	—
10	地盤			現況調査はなし						

野田市新清掃工場建設計画に係る生活環境影響調査予測評価結果一覧

No.	調査項目		現況調査結果		予測評価結果					
	項目	内容		環境基準値等内：○ 環境基準値等超：× 環境基準値等無：●	施工時			供用時		
					結果	判定		結果	判定	
						予測	評価		予測	評価
11	土壌	候補地内 及び近傍	36項目	○	候補地における土壌の現地調査結果は、すべての項目で土壌汚染対策法の指定基準を下回っている。また、ごみピットの設置工事にあたっては、適切な山留め壁の設置など、地下水の影響が生じない工法を採用し、地下水の影響が拡散しないようにしたうえで、掘削した土砂を候補地外へ搬出するにあたり、地下水との接触による搬出土の汚染がないことなど、受入先の受入基準との適合状況を確認することから、敷地造成工事、土木工事等に伴う土砂の移動による土壌汚染の影響はないと予測し、環境影響が回避されていると評価する。	○	○	—	—	—
		候補地周辺	5項目	○	—	—	—	焼却施設の稼働が30年と仮定した場合の土壌中のダイオキシン類濃度の環境保全措置を踏まえた予測結果は、付加率は0.01～0.09%で将来濃度は現況濃度とほとんど変わらないと予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○
12	風害			現況調査はなし	—	—	—	施設の存在による風速増加の可能性のある範囲は、環境保全措置を講じることにより概ね候補地内となることから、影響は小さいと予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○
13	光害			●	—	—	—	建物の明かりや外灯による影響は、環境保全措置を講じることにより、ほとんどなくなると予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○
	日照阻害			現況調査はなし	—	—	—	環境保全措置を講じることにより、秋分日の時刻別日影図及び等時間日影図は、建物の影が2時間以上隣接する水田に落ちることはないと予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○
14	電波障害			●	—	—	—	建物による電波障害の予測結果において、遮へい障害予測範囲に含まれる住居は、放送大学局で1棟であり、障害が出た場合には、環境保全措置を講じること、影響は小さくなると予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○

野田市新清掃工場建設計画に係る生活環境影響調査予測評価結果一覧

No.	調査項目			現況調査結果	予測評価結果					
	項目	内容		環境基準値等内：○ 環境基準値等超：× 環境基準値等無：●	施工時			供用時		
					結果	判定		結果	判定	
						予測	評価		予測	評価
15	植物		3項目	●	直接的な改変により、候補地内の植物は一部を除き消失するが、周辺の水田雑草群落は広く残ることから、植物相に変化はないと予測する。重要種については、周辺にも広く存在することから、生育状況の変化は小さいと予測する。また、環境保全措置を講じることで、環境影響ができる限り回避、低減されていると評価する。	○	○	直接的な改変により、候補地内の植物は一部を除き消失するが、周辺の水田雑草群落は広く残ることから、植物相に変化はないと予測する。重要種については、周辺にも広く存在することから、生育状況の変化は小さいと予測する。また、環境保全措置を講じることで、環境影響ができる限り回避、低減されていると評価する。	○	○
16	動物		5項目	●	候補地内のみで確認された種はなく、候補地と同様の生息環境である水田雑草群落は広く存在することから、動物相は変化しないと予測する。重要種についても、周辺に類似環境が存在することから、生息状況は変化しないと予測する。また、環境保全措置を講じることで、環境影響が回避されていると評価する。	○	○	候補地内のみで確認された種はなく、候補地と同様の生息環境である水田雑草群落は広く存在することから、動物相は変化しないと予測する。重要種についても、周辺に類似環境が存在することから、生息状況は変化しないと予測する。また、環境保全措置を講じることで、環境影響が回避されていると評価する。	○	○
17	陸水生物		2項目	●	陸水生物については、環境保全措置を講じることにより生息環境は変化しないと予測する。また、重要種についても同様の環境保全措置を講じることで、生息状況の変化は小さいと予測する。 以上から環境影響ができる限り回避、低減されていると評価する。	○	○	陸水生物については、環境保全措置を講じることにより生息環境は変化しないと予測する。また、重要種についても同様の環境保全措置を講じることで、生息状況の変化は小さいと予測する。 以上から環境影響ができる限り回避、低減されていると評価する。	○	○
18	生態系			●	上位性種について、サシバの行動圏面積は27～280ha程度であり、候補地の面積は約3haと小さいことから、サシバの餌生物の生息環境やサシバの採餌場所は変化しないと予測する。 典型性種については、水田雑草群落及び用水路の減少は小さく、沼は改変されないことから、そこに生息する生物の生息環境への影響はなく、また移動経路は分断されないと予測する。また、環境保全措置を講じることで、環境影響ができる限り回避、低減されていると評価する。	○	○	上位性種について、サシバの行動圏面積は27～280ha程度であり、候補地の面積は約3haと小さいことから、サシバの餌生物の生息環境やサシバの採餌場所は変化しないと予測する。 典型性種については、水田雑草群落及び用水路の減少は小さく、沼は改変されないことから、そこに生息する生物の生息環境への影響はなく、また移動経路は分断されないと予測する。また、環境保全措置を講じることで、環境影響ができる限り回避、低減されていると評価する。	○	○
19	景観			●	—	—	—	環境保全措置を講じることから、影響は小さいと予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○

野田市新清掃工場建設計画に係る生活環境影響調査予測評価結果一覧

No.	調査項目		現況調査結果		予測評価結果					
	項目	内容		環境基準値等内：○ 環境基準値等超：× 環境基準値等無：●	施工時			供用時		
					結果	判定		結果	判定	
						予測	評価		予測	評価
20	人と自然との触れ合いの活動の場			●	候補地周辺の主要な人の自然との触れ合いの活動の場としては、候補地の東側に位置する八間堀、又八沼、はきだし沼及び利根川サイクリングロードがある。施工時及び供用時に、環境保全措置を講じることにより、人と自然との触れ合いの活動の場の利便性及び快適性の变化に及ぼす影響は小さいと予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○	候補地周辺の主要な人の自然との触れ合いの活動の場としては、候補地の東側に位置する八間堀、又八沼、はきだし沼及び利根川サイクリングロードがある。施工時及び供用時に、環境保全措置を講じることにより、人と自然との触れ合いの活動の場の利便性及び快適性の变化に及ぼす影響は小さいと予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○
21	廃棄物			現況調査はなし	施工時に発生する廃棄物は、分別排出を徹底し、できる限り再資源化することから、影響は小さいと予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○	供用時に発生する廃棄物は、最終処分場に埋立処分する計画であり、影響は小さくなると予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○
22	残土			現況調査はなし	造成工事にあたって、発生土は盛土や埋戻しなどにより、できる限り再利用する計画とし、残土の発生を抑制することで残土量が小さくなると予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○	—	—	—
23	温室効果ガス等			現況調査はなし	—	—	—	温室効果ガスの二酸化炭素換算の排出量及び削減量について、焼却施設の稼働による二酸化炭素換算排出量は、3,144 t- CO_2 /年と予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価する。	○	○
24	安全			現況調査はなし	—	—	—	自然災害時では、候補地及び周辺での自然災害として、地震及び利根川からの浸水等が考えられる。これらに対しては、環境保全措置を講じることにより、安全性は確保されると予測し、環境影響が回避されていると評価する。 また、施設運転非常時では、施設の非定常時として、設備等の故障時、異常時や停電、火災発生時等が考えられる。これらに対しても環境保全措置を講じることから、安全性は確保されると予測し、環境影響が回避されていると評価する。	○	○

野田市新清掃工場建設計画に係る生活環境影響調査予測評価結果一覧

No.	調査項目			現況調査結果	予測評価結果					
	項目	内容		環境基準値等内：○ 環境基準値等超：× 環境基準値等無：●	施工時			供用時		
					結果	判定		結果	判定	
						予測	評価		予測	評価
25	農作物	5種類	3項目	●	—	○	○	【施設の存在による光害、日照阻害】 光害については、候補地周辺は現況では稲作への影響は生じない明るさであり、環境保全措置を講じることにより、候補地周辺の明るさは現状とほとんど変わらず、農作物への影響はないと予測し、環境影響が回避されていると評価する。 日照阻害については、秋分日において、本事業の計画建物による影は2時間以上隣接する水田に落ちないことから、農作物への影響はないと予測し、環境影響が回避されていると評価する。 【煙突排出ガスによる影響】 焼却施設の稼働が30年と仮定した場合の土壌中のダイオキシン類濃度は、1.501～14.001pg-TEQ/gとなり、環境基準値を下回るとともに、本事業による付加は0.1%未満であると考えられ、農作物への影響はないと予測する。また、環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り回避、低減されていると評価する。	○	○